

光町閉町の辞



光町長 齊 藤 譲

我が光町は、五十有二年の歴史を刻み、茲に閉町の幕を引くことになりました。

その所以は、平成の大合併により、隣町横芝町と郡域を越えた二町合併を成立させ、新町「横芝光町」へ移行するためであります。

顧みれば、光町が誕生したのは昭和二十九年五月三日、昭和の大合併の流れの中のことでした。

北から南へ、日吉村、南条村、東陽村及び白浜村の四カ村の合従合併でした。

時代は、未だ戦後復興の尾を引き、懸命に働いても人々の暮らしはなお貧しく、各村の運営もまた困難を極めていました。

故に、新生光町は合併直後、更に翌年と、二年続きの財政赤字を余儀なくされる苦難の門出となりました。

されど、新町建設に情熱をもやす先人達は、厳しさに怯むことなく、敢然として理想の町づくりに邁進されました。新町にとって最大の課題は、統合中学校の建設問題でした。

時の為政者をはじめ関係者は、劣悪な財政環境下で、当時破格ともいえる広大な校地を町の中央に定め、心血を注ぎ、この一大事業を見事に成し遂げられたのであります。

その先見の明と、次代を担う人づくりに夢を託した英断

は、以後の光町のバックボーンとなり、教育振興は町是となって、今日の光町の礎を築いたのであります。

これを端緒として、町民相互の信頼と融和、団結心が育まれ、穏やかで人情味豊かな気風が、町の隅々にまで満ち渡りました。

光町は、経済資源に乏しい町でしたが、歴代の町政は創意と工夫に富んだ進取の気概を持って、時代を先取りする政策を各般に亘って断行し、町民福祉の向上に努めてきました。

その結果、小粒ながらも調和のとれた、品格のある現在のふるさと光町が形成されたのです。

我等は、この夢と輝きのある光町に生まれ、生きる幸せを実感し、且つ誇りに思っています。

この度の市町村合併は、時代の要請するところでありま。我等は新町に対し高き理想と、福祉の更なる増進を期待しますが、一方で、新町の建設に協力し、自らが為すべき役割は、責任をもって確りと果たしていく覚悟でもあります。

愛しき光町、これを築いてくれた先人・先輩各位に、いま万感の思いをこめて「有難う」の一言を捧げ、この辞を結ぶ次第です。